

地蔵寺鳥獣保護区

**鳥獣保護区指定等調査業務
報告書**

平成31年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的	1
2. 調査区域及び調査対象	1
3. 調査内容	2
4. 調査地の概要及び環境	2
5. 調査方法	3
6. 調査地区位置図	4
7. 調査結果	5
7-1 鳥類現地調査	5
7-2 哺乳類	11
7-3 文献調査結果	12
8. まとめ	17
9. 参考文献	21

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、地藏寺鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

地藏寺鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。地藏寺鳥獣保護区の範囲を図2-1に示す。

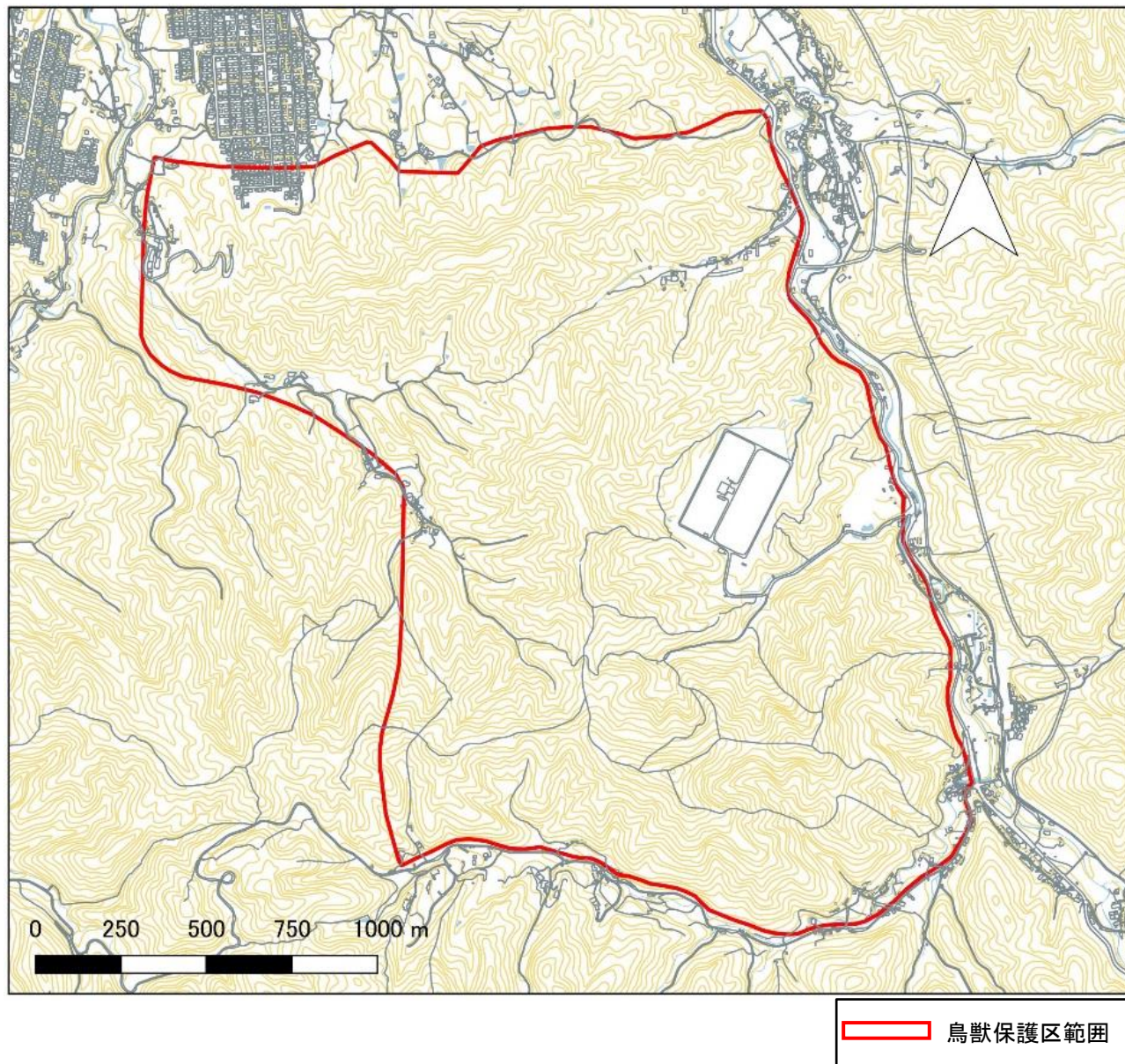


図 2-1 地藏寺鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色、希少性
- ・ 当該地域の自然環境の状況
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

地藏寺鳥獣保護区は大阪府南部の河内長野市に位置し、河内長野市内でも南部にある。当鳥獣保護区は、河内長野市所在の国道 371 号線、市道清水惣代線、市道唐久谷線および市道天見線で囲まれた区域で、面積は約 365ha である。範囲内には住宅地や集落があり、水田や耕地も見られるが、面積は小さく保護区内のほとんどが標高 491m の井谷ノ峰や標高 415m の学文峰を含む山地地形である。やや離れて南西に岩湧山鳥獣保護区があり、北に接して石仏特定猟具使用禁止区域(銃)がある。保護区内の山地植生は、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モチツツジアカマツ群集、伐跡群落で構成されているが、約 80% 以上はスギ・ヒノキ・サワラ植林であり、残りはモチツツジアカマツ群集で、伐跡群落は僅かである。学文峰山頂一帯やジルミ峠北側一帯はモチツツジアカマツ群集の樹相を呈しており、高木、亜高木層では、コナラ、アカマツ、ソヨゴが多く、ヤマザクラ、ウラジロノキ、タカノツメ、アラカシ等が見られ、低木層ではモチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ヒサカキ、イヌツゲが多く、シロダモ、サカキ、カマツカ、ヤマウルシ、クロモジ等が見られる。草本層ではコシダが多く、サルトリイバラ、ヤブコウジ等が見られる。地藏寺の北方、清水地区のスギ・ヒノキ・サワラ植林では、スギの植林内の低木層にはアオキ、アラカシ、ヒサカキが多く、イヌツゲ、ソヨゴ、ナンテン等が見られる。草本層ではミヤマフユイチゴ、ベニシダ、フモトシダ、リョウメンシダ、イワガネゼンマイ、ウラジロ等が見られる。鳥獣保護区内の流谷は、南海高野線天見駅から岩湧山へのハイキング道になっており、利用するハイカーも多い。流谷を含む天見周辺はスギ・ヒノキの植林のほかにエノキの高木も多く、本種を食樹とするオオムラサキなどの昆虫や府下では希少とされるムササビなどの哺乳類も生息している。また、鳥獣保護区周辺を流れる天見川は大和川水系・石川の支流でも上流部であり、府下でも良好な水質を保っており、水生昆虫なども多く生息する。流谷の尾根を北に越えれば「地藏寺」がある。ここは大阪府指定の名勝地で 4,500 ヘクタールの境内には豊かな自然が残されている。保護区内には大阪府下においては、ごく希に自生するアマナやワサビがあり、これを目当てに訪れる自然愛好家もみられる。

参考：「地藏寺鳥獣保護区指定調査報告書-平成 22 年度-」（大阪府，2011）

参考：「天見の植物」（1982）

参考：「大阪府ホームページ 府指定名勝 地藏寺」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/bunkazaihogo/bunkazai/jizouji.html> (2020 年 2 月 23 日アクセス)

参考：「大阪の生物多様性生物ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」（大阪府，2016）

5. 調査方法

調査は、現地調査及び文献調査により実施した。

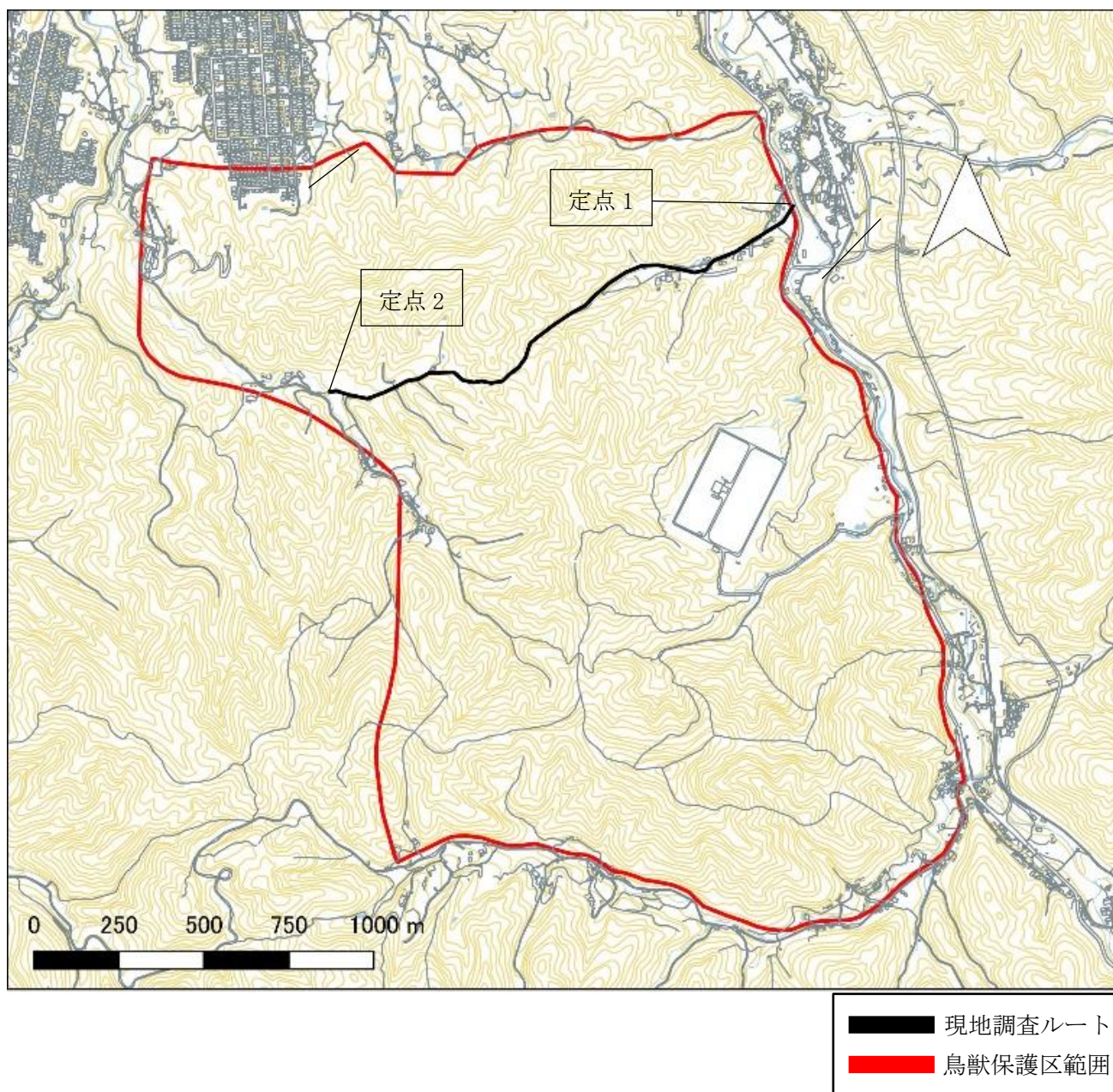
現地調査は、ラインセンサス法と、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、国道 371 号線脇の住宅地から山林内をぬけ農耕地に至るルート（1.47km）を設定した。ルートの位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、保護区内の農耕地、市街地など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を意識し、保護区内の要所を任意に歩いて確認された鳥類を記録した。調査時期は、繁殖期及び越冬期とした。また、越冬期の任意調査においてはルート上の開始地点と終了地点の 2 箇所を定点としてそれぞれ 10 分間の定点調査を行い、出現した鳥類を記録した。定点調査での記録は任意調査記録種として整理した。

さらに、繁殖期には現地調査とは別に自動録音装置による鳥の鳴き声の録音調査を実施した。得られた録音データを再生し鳴き声から種を同定し、現地調査では記録できなかった種を任意調査記録種として整理した。

6. 調査地区位置図

地藏寺鳥獣保護区範囲と現地調査ルートを図 6-1 に示す。

図 6-1 調査ルート位置図



7. 調査結果

現地調査の時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和元年 6 月 2 日	晴れ	ルート	6:40～7:51
			任意	7:55～12:50
	令和元年 6 月 3～6 日	晴れ	任意（録音）	4:00～8:00 17:00～21:00
越冬期	令和元年 12 月 13 日	晴れ	任意（定点 1）	7:40～7:50
			ルート	8:00～9:25
			任意（定点 2）	9:30～9:40
			任意	9:40～12:20

7-1 鳥類現地調査

① 確認種

現地調査の結果、7 目 23 科 48 種の野鳥を確認した。確認種を表 7-2 に確認鳥種の生息区分の内訳を図 7-1 に示す。

現地調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 22 種、夏鳥 10 種、冬鳥 9 種、外来種 2 種であり、留鳥 52%、夏鳥 23%、冬鳥 21%、外来種 5%と、一年を通してみられる留鳥が半分以上を占めた。生息区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

生息区分	種数	割合
留鳥	24 種	50%
夏鳥	13 種	27%
冬鳥	9 種	19%
外来種	2 種	4%

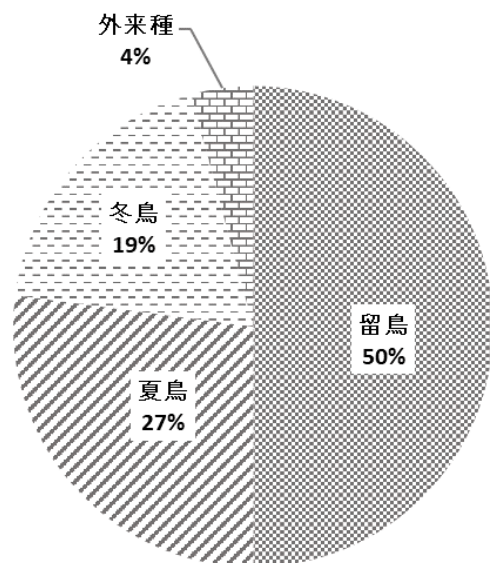


図 7-1 現地調査 生息区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥
2			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○		留鳥
3	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		○	留鳥
4			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○		留鳥
5	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥
6			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○		夏鳥
7	タカ	タカ	<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	冬鳥
8			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ		○	留鳥
9	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥
10			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		留鳥
11	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○		夏鳥
12		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥
13		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	留鳥
14		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○		留鳥
15			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	留鳥
16			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
17		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ		○	冬鳥
18		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥
19			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○		留鳥
20			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
21		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		夏鳥
22			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○		夏鳥
23			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○		夏鳥
24		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
25		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
26			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥
27		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥
28		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥
29		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥
30		ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		夏鳥
31			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	冬鳥
32			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	冬鳥
33			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	冬鳥
34			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ		○	冬鳥
35			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○	○	留鳥
36			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		夏鳥
37			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥
38			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥
39		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	留鳥
40			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ		○	留鳥
41		アトリ	<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○		留鳥
42			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	冬鳥
43			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	留鳥
44		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	留鳥
45			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	冬鳥
46			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	冬鳥
47	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○		外来
48	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ		○	外来
合計	7目	23科	48種		34種	28種	—

分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

② 繁殖する鳥類

繁殖期調査において確認された 34 種については、いずれも保護区周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 19 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され、保護区内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。

繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 7 種	10	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくり返し出入りしている	イワツバメ
	14	成鳥が巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含む）	ヤマガラ、センダイムシクイ
	21	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナを見た	コゲラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、
B (繁殖の可能性が高い) 12 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	ホトトギス、ツツドリ、アオゲラ、サンコウチョウ、ヒガラ、ヤブサメ、メジロ、クロツグミ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、オオルリ、キビタキ。
C (繁殖の可能性あり) 15 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	キジバト、アオバト、ダイサギ、サンショウクイ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、コジュケイ

※判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じ、配列順を変更して形成した。

③ 鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、4日19科33種164羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回毎の個体数を表7-4に示す。繁殖期では23種96羽、越冬期では19種68羽の鳥類の生息を確認した。繁殖期にはスギ・ヒノキ林と農耕地を中心に環境を構成する本調査ルートではサンコウチョウ、センドタイムシクイ、キビタキなどの夏鳥の生息を確認できた。一方、越冬期ではシロハラやジョウビタキ、ルリビタキといった冬鳥が見られたものの、繁殖期よりは全体的に個体数が少ない結果となった。

表 7-4 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	調査ルート			
				繁殖期	越冬期	計	
1	ハト	ハト	キジバト	3		3	
2			アオバト	2		2	
3	ペリカン	サギ	ダイサギ	2		2	
4	キツツキ	キツツキ	コゲラ	8	1	9	
5			アオゲラ	3		3	
6	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	1		1	
7		モズ	モズ		1	1	
8		カラス	ハシボソガラス	2		2	
9			ハシブトガラス	1	2	3	
10		キクイタダキ	キクイタダキ		1	1	
11		シジュウカラ	ヤマガラ	2	4	6	
12			シジュウカラ	1	1	2	
13		ツバメ	ツバメ	2		2	
14			イワツバメ	2		2	
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	18	10	28	
16		ウグイス	ウグイス	18	3	21	
17			ヤブサメ	2		2	
18		エナガ	エナガ	5	3	8	
19		ムシクイ	センドタイムシクイ	3		3	
20		メジロ	メジロ	5	10	15	
21		ヒタキ	シロハラ		1	1	
22			ツグミ		2	2	
23			ルリビタキ		5	5	
24			ジョウビタキ		1	1	
25			イソヒヨドリ	2		2	
26			キビタキ	3		3	
27		セキレイ	キセキレイ	2		2	
28			セグロセキレイ		2	2	
29		アトリ	カワラヒワ	2		2	
30			イカル		13	13	
31		ホオジロ	ホオジロ	7	2	9	
32			カシラダカ		1	1	
33		チメドリ	ソウシチョウ		5	5	
	4日	19科	33種	種数	23	19	33
				個体数	96	68	164

④ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認された鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-5 に示す。

1 羽/1ha 以上の生息密度を示した鳥は、繁殖期ではコゲラ、ヒヨドリ、ウグイスの 3 種で越冬期ではヒヨドリ、メジロ、イカルの 3 種であった。ヒヨドリは 2 期の調査を通して多く観察された。また、一部の種を除いて繁殖期の方が越冬期よりも総じて鳥類の生息密度は高い傾向にあった。

表 7-5 個体数密度 (羽/1ha)

種名	繁殖期	越冬期
キジバト	0.41	
アオバト	0.27	
ダイサギ	0.27	
コゲラ	1.09	0.14
アオゲラ	0.41	
サンコウチョウ	0.14	
モズ		0.14
ハシボソガラス	0.27	
ハシブトガラス	0.14	0.27
キクイタダキ		0.14
ヤマガラ	0.27	0.54
シジュウカラ	0.14	0.14
ツバメ	0.27	
イワツバメ	0.27	
ヒヨドリ	2.45	1.36
ウグイス	2.45	0.41
ヤブサメ	0.27	
エナガ	0.68	0.41
センダイムシクイ	0.41	
メジロ	0.68	1.36
シロハラ		0.14
ツグミ		0.27
ルリビタキ		0.68
ジョウビタキ		0.14
イソヒヨドリ	0.27	
キビタキ	0.41	
キセキレイ	0.27	
セグロセキレイ		0.27
カワラヒワ	0.27	
イカル		1.77
ホオジロ	0.95	0.27
カシラダカ		0.14
ソウシチョウ		0.68
鳥類全種	13.06	9.25

⑤ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目7科8種であった。確認された重要種を表7-6、確認位置を図7-2に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が1種、環境省レッドリスト記載種が2種、大阪府レッドリスト記載種が8種確認された。レッドリスト記載種8種のうち、繁殖期に確認されたものはツツドリ、サンショウクイ、コシアカツバメ、センダイムシクイ、コサメビタキの5種で、うちセンダイムシクイについては繁殖が確認された。また、越冬期の調査では種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されているクマタカが確認された。

表 7-6 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
2	タカ	タカ	<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
3			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少	EN	CR+EN
4	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		VU	VU
5		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT
6		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
7		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
8		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
計	3目	7科	8種		1種	2種	8種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 EN：絶滅危惧ⅡB類 (EN) IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

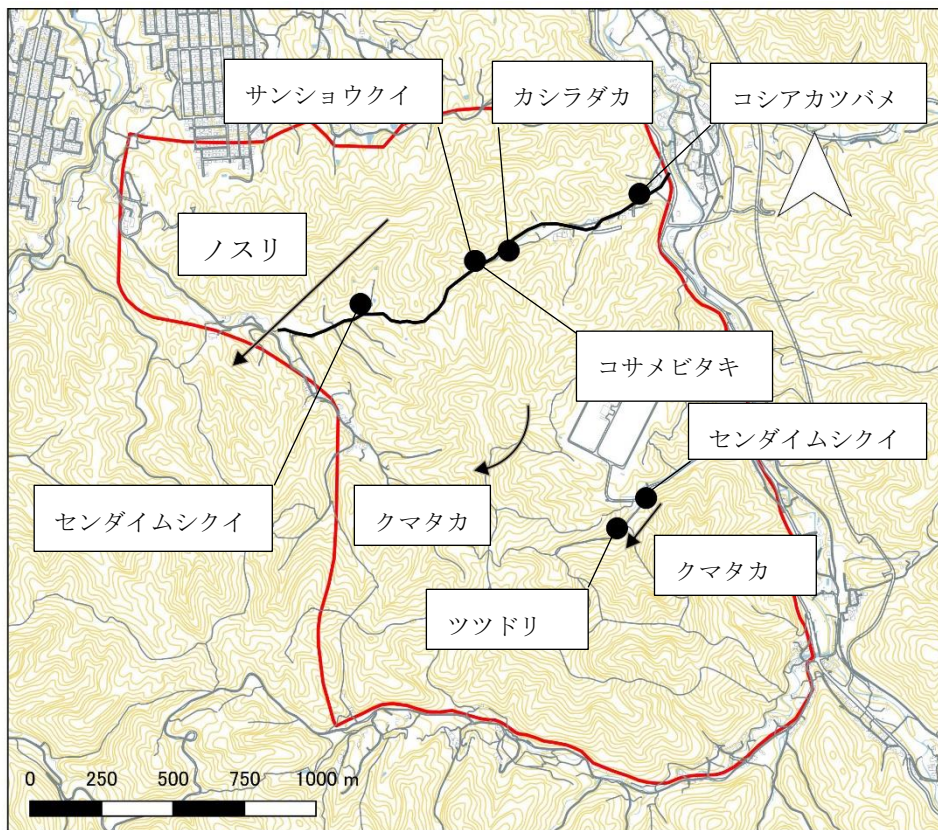


図 7-2 重要種確認位置図

7-2 哺乳類現地調査

① 確認種

現地調査の結果、2目2科2種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-7、重要種を表7-8に示す。「種の保存法」及び「環境省R L」に該当する種は確認できなかった。

学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。調査ルート中ではイノシシによるラッセル跡が多く見られた。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	備考
1	齧歯目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ	
2	偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	
合計	2目	2科	2種		

② 重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種として、保護区内の任意調査中に山林内に設置された巣箱から出てきたムササビを確認できた。本種は樹洞がある山林内を住处としているが、近年は洞のある樹木の減少に伴って個体数が減少しているとされている。

表 7-8 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	大阪府 R L
1	齧歯目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ	NT

7-3 鳥類文献調査

文献調査は以下の参考文献を元を実施した。文献の記載概況を 7-9 に示す。また、確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 7-10 に示すとおりである。

表 7-9 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	2017 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	河内長野市自然環境調査	2002 年・河内長野市環境政策課

表 7-10 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2019（環境省RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府RL）

① 確認種

文献調査の結果、11目30科68種の鳥類を確認した。確認種を表7-11に、確認された鳥類の渡り区分の内訳を図7-3に示す。文献別では、文献1で68種、文献2で33種、合わせて68種が確認された。

分類は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥38種、夏鳥11種、冬鳥16種、旅鳥1種、外来2種であった。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、56%であった。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。なお同目録において、旅鳥(一部夏鳥)とされているコサメビタキは、現地調査における出現状況を踏まえて夏鳥とした。また、冬鳥(一部留鳥)とされているトラツグミについては、現地における確認が得られなかったため、冬鳥として扱った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	38種	56%
夏鳥	11種	16%
冬鳥	16種	24%
旅鳥	1種	1%
外来	2種	3%

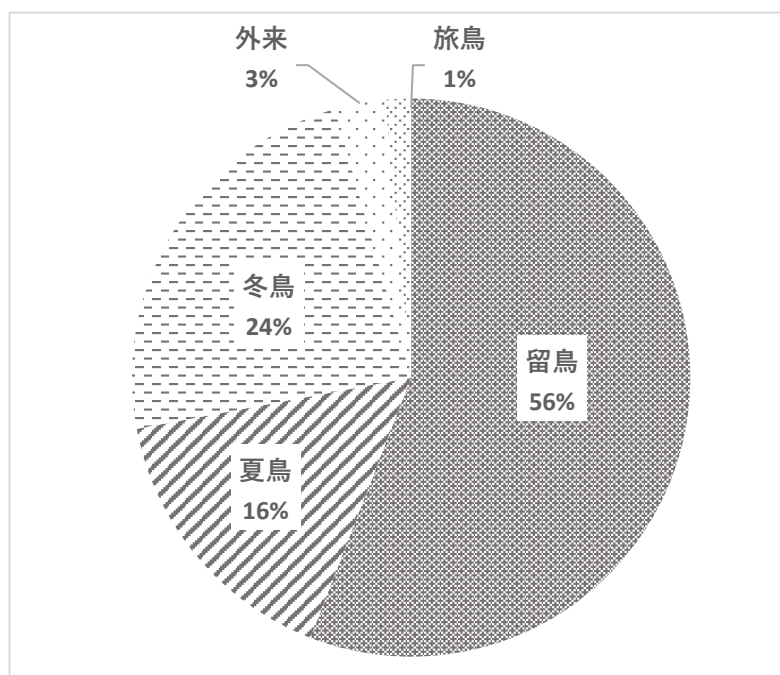


図 7-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-11 文献調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献1	文献2	渡り区分
1	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○		留鳥
2	カモ	カモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○		留鳥
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥
4	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○		留鳥
5			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○		留鳥
6			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○		留鳥
7	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥
8	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○		留鳥
9		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○		夏鳥
10			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○		留鳥
11			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	○	冬鳥
12			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○		留鳥
13			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		夏鳥
14			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	冬鳥
15			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		留鳥
16	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○	○	留鳥
17			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク	○		夏鳥
18	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカショウビン	○		旅鳥
19			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○	留鳥
20	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥
21			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		留鳥
22	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ	○		留鳥
23			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○		留鳥
24	スズメ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○	留鳥
25		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○		留鳥
26			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	留鳥
27			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
28		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ	○		冬鳥
29		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥
30			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○		留鳥
31			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
32		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○	○	夏鳥
33		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
34		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
35			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥
36		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥
37		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥
38		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥
39		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○		留鳥
40		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○		留鳥
41		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス	○		留鳥

表 7-11 文献調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献1	文献2	渡り区分
42		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○		冬鳥
43			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		夏鳥
44			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○	○	冬鳥
45			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	○	冬鳥
46			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○	○	冬鳥
47			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○	○	冬鳥
48			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○		留鳥
49			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○	○	夏鳥
50			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	○	夏鳥
51			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥
52		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○		冬鳥
53		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○	留鳥
54		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	留鳥
55			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○	留鳥
56			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○	○	留鳥
57			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○	○	冬鳥
58		アトリ	<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	留鳥
59			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○		冬鳥
60			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○		冬鳥
61			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○		冬鳥
62			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ	○	○	冬鳥
63			<i>Eophona personata</i>	イカル	○		留鳥
64		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	留鳥
65			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○	○	冬鳥
66			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	○	冬鳥
67	(キジ)	(キジ)	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	外来
68	(ハト)	(ハト)	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)	○		外来
計	11目	30科	68種		68種	33種	

② 重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は4目8科15種であった。確認された重要種を表7-12に示す。

今回の文献調査で、種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が7種、大阪府レッドリスト記載種が11種確認された。該当種はいずれも陸鳥で、タカ目、ハヤブサ目等、猛禽類が多く含まれていた。

表 7-12 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT	
2		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN
3			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT	
4			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	
5			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
6			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
7			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少	EN	CR+EN
8	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			NT
9			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			VU
10	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	国内希少	VU	
11	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
12		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT
13		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
14			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
15	ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ				NT
計	4目	8科	15種		2種	7種	11種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

EN：絶滅危惧ⅡB類 (EN) IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある

8. まとめ

1. 現地調査の結果、7目23科48種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数は繁殖期が34種、越冬期が28種であった。また、確認した鳥類の生息区分の内訳は、留鳥50%、夏鳥27%、冬鳥19%、外来4%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで夏鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種（Aランク）は7種、繁殖の可能性が高い種（Bランク）は12種であった。

ラインセンサス法で記録された鳥類は、4目19科33種154羽であり、繁殖期で23種95羽、越冬期で19種68羽であった。生息密度は多くの種で繁殖期より越冬期の方が高い傾向があった。1羽/1haを超えた種は繁殖期ではヒヨドリとウグイスの2種。越冬期ではヒヨドリとメジロの2種であった。ヒヨドリはいずれの期でも多く観察された。

繁殖期に現地調査とは別に行った自動録音装置を用いた鳴き声調査の結果、4目18科28種の鳥類が確認された。本調査により現地調査では確認できなかったサンショウクイ、カケス、ヒガラ、コサメビタキ、オオルリの5種が記録された。これらの記録は任意調査記録として扱った。本調査のような日数の限られた現地調査における自動録音機を用いた調査が調査精度を高めるうえで有効であることが実証された。

2. 文献調査の結果、11目30科68種の鳥類が確認され、そのうち15種が重要種であった。これら確認種の生息区分の内訳は、留鳥56%、夏鳥16%、冬鳥24%、旅鳥1%、外来3%であり、現地調査の結果と同様に留鳥が半分以上と高い割合を示した。
3. 現地調査と文献調査により、11目33科75種の鳥類が確認され、そのうち18種が重要種であった。表8-1に現地調査・文献調査の確認種一覧を示す。
4. 現地調査における重要種はすべて陸鳥で、種の保存法記載種は1種、環境省レッドリスト記載種1種、大阪府レッドリスト記載種6種が確認された。また、文献調査における重要種では陸鳥が15種、種の保存法記載種は2種、環境省レッドリスト記載種は7種、大阪府レッドリスト記載種は11種であった。重要種の内訳では、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類の占める比率が高かった。
5. 以上のように地蔵寺鳥獣保護区は、希少鳥類、中でも猛禽類の生息種数が多い、府下でも有数の良好な自然環境を有している地域であると言える。猛禽類は他の生物を捕食する生態系の上位種でありそれらが多種確認されたことはその足元に多様な餌動物が生息する生物多様性に富んだ環境であることを示している。現地調査で確認されたクマタカについては越冬期の確認であったものの、2011年9月18日に流谷地区内において死体が拾得されており、今回の観察と併せて地蔵寺鳥獣保護区周辺を行動圏として生息している個体が存在することを示唆された。また、鳥類だけでなく当保護区内にはムササビなどの大阪府では希少な哺乳類のほか、現在は減少傾向にあるトノサマガエル、イモリなどの両生類なども比較的多く生息しておりこれらを捕食する鳥類にとっても生息しやすい環境が整っていると考えられた。以上のことから、地蔵寺鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として非常に貴重な地域であり今後も鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてさらに良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種 (1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	
					繁殖期	越冬期		
1	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○	
2	カモ	カモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ			○	
3	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	
4			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○			
5	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		○	○	
6			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○		○	
7			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○	
8	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○	
9			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○			
10	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○	
11		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○	
12			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○	
13			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	
14			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	
15			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○	
16			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	○
17			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	○
18	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○	
19			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○	
20	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>	アカシヨウビン			○	
21			<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ			○	
22	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	
23			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		○	
24	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ			○	
25			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	
26	スズメ	サンシヨウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンシヨウクイ	○			
27		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○			
28		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	○	
29		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○		○	
30			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	○	
31			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	
32		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ		○	○	
33		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	
34			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○		○	
35			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	
36			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		○
37			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○			
38			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○			
39		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	
40		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	
41			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○	
42	エナガ		<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	
43	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○		
44	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○		
45	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ			○		
46	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ			○		
47	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○		

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種 (2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査		
					繁殖期	越冬期			
48	スズメ	ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○		
49			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		○		
50			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○		
51			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	○		
52			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○		
53			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ		○	○		
54			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○	○	○		
55			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○		
56			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		○		
57			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○		
58			イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○	
59			スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ			○	
60			セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○
61					<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○
62	<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ				○	○		
63	<i>Anthus hodgsoni</i>	ピンズイ					○		
64	アトリ		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○		○		
65			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ			○		
66			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	○		
67			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ			○		
68			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ			○		
69			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	○		
70	ホオジロ		<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	○		
71			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○		
72			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○		
73	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○		○		
74	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト			○		
75	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ		○			
	11 目	33 科	75 種		34 種	28 種	68 種		

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL	
					繁殖	越冬					
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○					NT	
2	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○		NT		
3		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○		NT	CR+EN	
4			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○		NT		
5			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○		NT	NT	
6			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○		VU	CR+EN	
7			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○			NT	
8			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ		○	○	国内希少	EN	CR+EN	
9			フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○		NT
10	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク					○			VU	
11	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	国内希少	VU		
12	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○				VU	VU	
13		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○					NT	
14		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○			NT	
15		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○			NT	
16		ヒタキ		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○			NT
17				<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○			VU
18		ホオジロ		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○			NT
5 目		11 科	18 種		4 種	3 種	15 種	2 種	9 種	14 種	

CR+EN：絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種

EN：絶滅危惧 I B 類 (EN) IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2019」(2019年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
3. 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019年1月, 環境省報道発表資料)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2017年, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
6. バードリサーチ 鳴き声図鑑
(NPO 法人バードリサーチ, https://www.bird-research.jp/l_shiryo/nakigoe.html)
7. 「河内長野市自然環境調査」(2002年, 河内長野市)
8. 「地蔵寺鳥獣保護区指定調査報告書」(2011年, 大阪府)
9. 「天見の植物」(1982年, 河内長野市)
10. 「大阪府ホームページ 府指定名勝 地蔵寺」
(大阪府, <http://www.pref.osaka.lg.jp/bunkazaihogo/bunkazai/jizouji.html>)
11. 「大阪の生物多様性生物ホットスポット-多様な生き物たちに出会える場所-」(2016年, 大阪府)